



日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞 2022 選考結果

【2022年度の賞の選考】

2022年度は日本イコモス賞3件、日本イコモス奨励賞2件の応募がありました。

選考委員会において、慎重に検討、協議を行った結果、下記のとおり、日本イコモス賞1件、日本イコモス奨励賞1件を選定いたしました。

日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞 選考委員会

西浦 忠輝(委員長)

加藤 友規

北河大次郎

清水 重敦

田尾 誠敏

<委員長以外は50音順>

【日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞 2022】

日本イコモス賞

- ・新上五島町（代表者：町長 石田信明）
 - ・新上五島町文化的景観整備活用委員会（代表者：委員長 荒木貞美）
 - ・風景デザイン研究所(株)STEP（代表者：代表取締役 徳永哲）
- 「頭ヶ島の集落里みち 一新上五島町 海のほそみち Landscape Museum 一」
<応募者：徳永哲 氏>

日本イコモス奨励賞

- ・中田貴子（好日舎）
 - ・中田 哲（中田哲建築設計事務所）
- 「旧太田喜二郎邸の保存復原プロジェクト」
<推薦者：田原幸夫 氏>



受賞業績と授賞理由

日本イコモス賞

- ・新上五島町（代表者：町長 石田信明）
- ・新上五島町文化的景観整備活用委員会（代表者：委員長 荒木貞美）
- ・風景デザイン研究所(株)STEP（代表者：代表取締役 徳永哲）

【受賞業績】

「頭ヶ島の集落里みち 一新上五島町 海のほそみち Landscape Museum 一」

【授賞理由】

五島列島の中央にある中通島の東に位置する頭ヶ島は、五島石と呼ばれる砂岩の採石地として栄えた島で、中通島東部の集落とともに2012年に重要文化的景観「新上五島町崎浦の五島石集落景観」に選定され、さらに頭ヶ島東部に設けられた上五島空港の一角を除く島全体が、2018年に世界遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産となっている。この島内に点在する集落を結ぶ主要な道として使用されてきた「頭ヶ島の集落里みち」を、2019～2021年度の重要文化的景観の保護事業として整備したものが本業績である。

五島石の採石加工で栄えた頭ヶ島には文化的景観の価値を支える生活、生業を物語る場所が点在しており、複数の集落やこれらの場所が主要生活道である「里みち」によって繋がれていた。しかし生業の衰退とともに昭和50年代後半から使用頻度が減って土砂や植物に埋もれていき、通行困難でかつ文化的景観としての価値が見えにくい状況にあった。観光の観点からは、島内産の五島石を用いた重要文化財頭ヶ島天主堂が所在する白浜地区が中心となるが、他の見所へのアクセスが悪く、観光客の滞在時間が短いことが課題であった。こうした問題を解決すべく実施されたのが本業績の里みち整備事業で、島の北にある白浜地区及び福浦地区と南の田尻地区を回遊できるように結ぶ里みちの復旧がなされた。この事業を実施者は「海のほそみち Landscape Museum」と名付けている。

本事業の特徴は以下の3点にまとめられる。1点目は、里みちに沿って点在する生活、生業の痕跡に関わるエピソードの掘り起こしが行われ、景観にエピソードを重ね合わせることで、文化的景観の価値の見える化がなされていることである。石切場、石積擁壁の段畑、石積壁を持つ小屋、かつての玄関口の港、小学校分校跡の建物を利用した製塩工場、キリスト教への信仰、里みちからの眺望などが里みちの途中に散在し、通行を魅力的なものにしている。

2点目は、行政、コンサルタント、地元住民の協働による整備で、特に地元住民が参加するワークショップを数多く開催することで、地域全体で計画、実施、活用する体制が作られている点である。とりわけ里みちを生かしたことも世代の世界遺産学習、高校生へのレクチャーや体験については膨大な回数を実施されており、地域の未来を担う世代の育成に大きく貢献している。



3点目がウォークスルーによる整備事業の実施という事業手法で、発注者、施工者、設計者が同時に現地を歩き、共同で確認して設計・施工・管理に反映させるというものである。この手法により、景観の多様性に対応した細やかな整備がなされており、価値の顕在化、伝統工法の継承、歩きやすさの確保、水みちの確保、景観になじむわかりやすいサイン計画といった諸点が同時に実現されている。

これらの特徴は、文化的景観の持続的継承の方法に対して示唆するところが大きい。それは手を入れる箇所を最低限に留めた整備、すなわち整備し過ぎない整備という方法を取ったことである。このことにより、島の生態系に大きな影響を及ぼさず、また地元住民による日常的なメンテナンスが可能になり、持続可能性が担保されている。また部分の整備に留まらず、島の南北を繋いで回遊することができる里みちの整備が実現されているのもこの手法を取ったことによる成果といえよう。島の特性を活かした新たな生業の開拓にも繋がる可能性を開くものでもあり、今後の活用の可能性を開く着実なインフラ整備としても評価できる。

本業績は、文化的景観の持続的継承において、保存と活用の均衡がとれた着実な整備手法を提示するものとして、先駆的な業績と評することができる。また、世界遺産の構成資産における整備のあり方としても、地域の持続可能性を主とした地に足のついた手法として特筆すべきものといえる。

日本イコモス国内委員会は、頭ヶ島の集落里みちの整備とその管理活用に関わるすべての人々の努力を讃え、その推進母体である「新上五島町、新上五島町文化的景観整備活用委員会、風景デザイン研究所(株)STEP」に「日本イコモス賞2022」を授与する。

【参考資料】

- 1 「頭ヶ島の集落里みち」 冊子
- 2 「頭ヶ島の集落」 世界文化遺産リーフレット
- 3 「新上五島町崎浦の五島石集落景観」 パンフレット
- 4 「上五島 海のほそみち頭ヶ島」 新上五島町文化的景観里みちマップ

日本イコモス奨励賞

中田貴子（好日舎）

中田 哲（中田哲建築設計事務所）

【略歴】

中田貴子

1978 年生まれ。好日舎代表。2001 年椋山女学園大学生生活科学部生活環境学科卒、現在、京都芸術大学大学院芸術研究科在学。2017 年京都市文化財マネージャー登録、2021 年京都工芸繊維大学ヘリテージ・アーキテクト養成講座修了。

中田 哲

1978 年生まれ。中田哲建築設計事務所代表。2001 年北海道大学工学部環境工学科卒、2019 年京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術環境専攻修了。一級建築士、京都市京町家耐震診断士。中田貴子氏と共に、2017 年グッ



ドデザイン賞（「西賀茂の家」に対して）、2021年グッドデザイン賞・京都デザイン賞審査員賞・2022年京都建築賞奨励賞（「下鴨共庭住宅」に対して）等を受賞。

【受賞業績】

「旧太田喜二郎邸の保存復原プロジェクト」

【授賞理由】

旧太田喜二郎邸は、京都市の烏丸通に東面する敷地に建つ洋画家・太田喜二郎のアトリエ付住宅で、藤井厚二が設計した大正13年竣工の主体部と、太田自らが設計に関与した昭和6年増築の新画室（アトリエ）から構成される。内装の幾何学的意匠や長椅子等のつくり付け家具に藤井の作風が看取され、絵画の制作に適した室内空間の実現を目指した新画室を含め、細部に至るまで丹念に作り込まれた貴重な建築作品である。本建造物は、2019年に京都府文化博物館と目黒区美術館で開催された「太田喜二郎と藤井厚二」展を一つの契機として文化遺産としての価値が広く注目されることとなり、同年に京都市の「京都を彩る庭園や建物」に認定された後、2020年に同市の景観重要建造物に指定され、2021年には国の登録有形文化財に登録されている。

本プロジェクトは、長年家族に受け継がれてきたこの貴重な文化遺産を引き続き住宅として使用するために、必要な設備工事や耐震補強を行いつつ、詳細な調査に基づき昭和6年の姿に復原した保存復原プロジェクトである。中田貴子・中田哲両氏は本プロジェクトにおいて、建造物の保存に向けた所有者への働きかけから、工事の事前調査および設計監理、さらには補助金申請を含む行政機関との調整など、多岐にわたる業務をこなし、その中心的役割を果たした。

両氏は、本プロジェクトの実施にあたり類例調査を重ねて藤井厚二作品に対する理解を深め、膨大な関連史料（設計図書、古写真、日記、絵はがき等）の悉皆的な調査・分析と解体に伴う詳細な痕跡調査に基づき復原根拠を洗い出し、確たる根拠を得られなかった箇所については、有識者へのヒアリングや現地でのアドバイスを踏まえて痕跡を保存しながらシンプルに仕上げるなど、確かな調査と手法に基づき精緻な復原工事を成し遂げている。さらにリビング・ヘリテージとして使い続けるために新たに整備した箇所については、復原箇所との調和が図られ、両氏がこれまで町家建築の新築・再生工事で培ってきた経験が存分にいかされている。

我々の暮らしを彩る多くの貴重な近現代建造物が取り壊しの危機に瀕する現代社会において、旧太田喜二郎邸の保存復原プロジェクトは、近現代建造物の文化遺産としての価値を見事に顕在化し、かつ、その価値を生活空間に巧みに取り込んだ、近現代建造物保存活用の模範的事例の一つといえる。

日本イコモス国内委員会は、本プロジェクトにおける中田貴子氏と中田哲氏のヘリテージ・アーキテクトとしての業績を高く評価し、両氏に対し「日本イコモス奨励賞2022」を授与する。

【プロジェクト概要】

- 2019年秋～2021年秋： 実測調査、史料調査及び考察
- 2019年： 「京都市京都を彩る庭園や建物」認定（中田貴子氏が調査メンバーの一人として参加）
- 2020年： 「京都市景観重要建造物」指定
- 2021年秋～2022年春： 保存復原改修工事
（京都を彩る庭園や建物、景観重要建造物としての補助事業）



ICOMOS Japan

プレスリリース

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

解禁日時：2023年2月22日（水）

2022年秋～2022年秋： 耐震補強及び外構工事

《本件に関するお問合せ先》

日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞選考委員会 委員長 西浦忠輝

日本イコモス国内委員会事務局 担当：協園

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13F 文化財保存計画協会気付

E-mail: jpicomos@japan-icomos.org